

就任のご挨拶

副会長就任のご挨拶

副会長

上川北部医師会
名寄市立大学 学長

佐古和廣



この度、北海道医師会副会長を拝命いたしました佐古和廣です。1975年北大を卒業後、脳神経外科に入局、1978年に新設の旭川医大に移りました。1992年名寄市立病院の改築に伴い脳神経外科を新たに開設することとなり、初代医長として赴任いたしました。旭川以北では初めての脳神経外科施設ということで、稚内から士別までが医療圏で大変忙しい日々でした。しかし、名寄で患者さんや住民の皆様との交流を通して大学病院勤務時代には味わえなかった「やりがい」、医師として社会に役立っているということ初めて実感した気がしました。その後、私が20年以上名寄で地域医療に携わることになった一番の動機であります。

いま、北海道（多分、日本全体）の地方における医療提供体制は崩壊の危機にあります。「新医師臨床研修制度」で地方の病院の医師不足が加速しましたが、新たに始まった「新専門医制度」と「働き方改革」の導入により地方の中核病院でさえも将来の医師確保を見通せない状況であります。抱える人口が少ない医療圏では急性期患者の集約化を図り、専攻医・専門医が資格を取得・継続できる受け皿づくりが必要です。私はこの1年間地域医療構想アドバイザーという立場で北海道の各医療圏の実情を見てまいりましたが、地方は公立病院が地域医療を支えているというのが実態であります。しかし、公立病院も医師確保、財政の面からその持続性が危惧される医療圏も数多くあり、再編の議論は避けられないと思います。

今回、道医の副会長という役職を与えていただきましたが、私の役割は長瀬会長からも言われていますが、地方の患者さん、医療従事者の声を道医に届け、北海道の地域医療を守ることに少しでも貢献することであると考えています。微力ではありますが精一杯努力する所存でございますので、道医の役員の皆様はもとより会員の皆様のご指導、ご支援よろしくお願い申し上げます。

常任理事就任のご挨拶

常任理事

札幌市医師会
医療法人社団荒木病院 院長

荒木啓伸



札幌市医師会の松家治道会長の推薦を賜り、6月15日の第154回定時代議員会において常任理事に選任いただきました。重責を拝命し気が引き締まる思いでございます。

簡単に自己紹介をさせていただきます。札幌市の出身で、平成14年に札幌医科大学を卒業いたしました。卒業後は、同大学の第4内科で主に消化器の臨床及び研究を行っておりましたが、その後思うところがあり、精神科に転向し、主に高齢者の認知症を中心とした診療を行っております。

これまで3期6年間、札幌市医師会において理事を務めて参りました。その間、地域福祉部長、政策部長を拝命しました。地域福祉部では、松家執行部が力を入れている地域包括ケアシステムの構築、とりわけ在宅医療の推進と、その円滑な実施に向けた体制づくりに携わることができたことは大変光栄に思っております。また、会員の先生のご協力で、常時7～8名の欠員が生じていた介護認定審査会の医師委員の欠員をなくすことができたことを6年間の任期の中で最も嬉しく思っております。

政策部では、会員の先生と医政に関する問題を議論し、提言を行うことはもちろんですが、一般の市民に、わかりやすい言葉で医療を伝えることをもう一つの目標として活動させていただきました。毎年実施してきた「市民対話集会」を、札幌市医師会館を離れ、大通地下歩行空間で実施し、幅広い層の市民の皆さんと医療の話題で盛り上がる事ができたことはとても印象に残っております。

今後は、北海道医師会の常任理事として、これまでとは質や幅も大きく違った仕事をさせていただくことになるかと思っております。まだまだ勉強不足の身でございますが、一日も早く仕事に慣れ、一人でも多くの会員の先生のお話を伺い、微力ながら北海道医師会、そして北海道の医療の維持発展に貢献できるよう、一生懸命頑張っていく所存でございます。会員の皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

北海道医師会理事に就任して

理事

石狩医師会
医療法人社団立石クリニック 院長
立石圭太



このたび、中央ブロックより推薦を受けて北海道医師会理事に就任しました。

4年前から石狩医師会会長として活動していますが、小さな医師会運営さえも順調とはいかず、北海道医師会の膨大な事業内容を考えると力不足もはなはだしいところですが、できる限りの努力をしたいと思います。

石狩市の現状は今まさに高齢化の最中で医療や福祉の環境は大きく変化しています。約10年間、新規としての開業はなく、医師の高齢化が進み、人口10万当たりの医師数は全国平均を大きく下回り、診療所の閉院、病院の経営形態が変わると医師会を脱会するという悪循環で、地域的には札幌医療圏と大きく変わることがないにも関わらず、他の地方都市同様に地域医療の環境整備の遅れが目立ちます。そして昨今の地域医療構想の主役の一人である市の行政職員は、約半数が札幌など市外在住という特殊な状況も地域の問題に対する理解が進まない壁と考えてしまいます。

しかし医師会の地域の厚生事業を継続しながらも目の前に差し迫った多くの問題があり、時がきたらと思いつきながら医師会会員と地域の多職種の有志達とで月1回の集まりで、7年間程地域で在宅の看取りを継続してきました。そして行政内部の変化も必要と考え今年の5月は石狩市市議選に医師会の事務局員が立候補し当選を得て市議会からも医療と福祉に関わる地域の問題を少しでも明らかにしていくことができるようになりました。

まだ何一つ形になったものは得ていませんが、これらの小さな地域の活動が今後の石狩市の地域包括の基礎の一つとなり石狩市独自のシステムになることを夢見ています。

これらの地域の問題を抱えながら北海道医師会の活動を通して少しでも地域の状況が良くなればと考えます。

今後も微力ながら北海道医師会および中央ブロック医師会の発展に少しでも貢献できればと考えています。どうぞ宜しくお願いします。

就任ご挨拶

理事

旭川医科大学医師会
旭川医科大学医学部医学科産婦人科学講座教授
千石一雄



この度北海道医師会理事を拝命いたしました旭川医大医師会の千石です。

私は旭川医科大学の1期生として卒業し、清水哲也教授が主宰されておりました産婦人科教室に入局、その後も海外留学期間以外は旭川医大産婦人科で臨床、研究、教育に携わってまいりました。生命の神秘に憧れ、最初は周産期医学に興味を抱きましたが、卵子の美しさに魅了され、生殖医療を専門とし、主に体外受精をはじめとする生殖補助技術(ART)に取り組んでまいりました。当時、本邦では体外受精による分娩例がようやく報告されるようになった時代でしたが、今や日本は世界最大のART国となり、2016年度の治療件数は44万件超、出生児も5万人を超え、新生児の18人に1人は体外受精によって生まれる時代です。このことは、近年の晩婚化・晩産化にともなう高齢婦人の妊孕能の低下を象徴するものであり、自然妊娠で子供を得ることが難しい時代になってきていることを示唆しているのかもしれませんが、世界に類を見ない未曾有の超少子・高齢化社会に直面する我が国においては、産婦人科医はこれまで以上に社会に対し責務と重要性が増すものと思われれます。残念ながら、新臨床研修制度の開始を契機に、産婦人科医師数は減少し、また、地域偏在にも拍車がかかっている状況です。特に北海道の特性である広大な面積と冬季の交通アクセスの困難さからも地域の分娩施設の維持が難しい状況にあります。また、最近の女性産婦人科医師数の顕著な増加を踏まえ、日本産婦人科学会では産婦人科医療体制の維持・発展を目的に、女性のワークライフバランス(WLB)の問題に早期より積極的に取り組んでまいりました。私もこの2年間、日本産婦人科学会の男女共同参画・WLB委員会委員長として、待ったなしの働き方改革をも見据え、活動してまいりました。未だ理想的な制度設計を模索中ではありますが、北海道医師会にも何らかの貢献ができるのではないかと考えております。これまで北海道医師会と直接かかわる機会は多くはありませんでしたが、今後は微力ながら尽力したいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

監事就任のご挨拶

監事

小樽市医師会
外園内科医院 院長

外園 光一



この度、前任の津田哲哉先生から引き継ぐ形で北海道医師会の監事に就任することになりました。

直前の2年間は小樽市医師会監事を務めていました。北海道医師会の定款によりますと「監事は、会務および財産状況を監査する」、「監事は、理事会および常任理事会に出席して意見を述べることができる」とあります。令和元年の6月から常任理事会に出席し、先輩の藤瀬幸保先生、篠島 弘先生両監事の御指導を戴きながら北海道医師会に微力ながら貢献していければと思っています。なお、7月には参議院議員選挙があり、役員として医師会館から電話での依頼も行ないました。これから、2年間よろしくお願い致します。

副議長就任のご挨拶

副議長

美唄市医師会
医療法人社団井門内科医院 院長

井門 明



この度、北海道医師会の副議長に就任いたしました。私は平成21年に道医代議員会の代議員となり、これまで約10年間代議員会に出席させて頂いてきました。今までは、会議のたびに変わる席順に、「今日は一番前で長瀬会長の真ん前の席だから緊張する」だとか、「後ろの席だから気が楽だ」などと言っておりましたが、まさか代議員の皆様に向き合う席に座ることになる日が来るとは思いもありませんでした。責任の重さに身の引き締まる思いがいたします。

私は、人から（特に先輩から）の頼まれごとを、断ることが出来ません。私のようなものに頼んでくれるのだから、余程困っているのであろうと考えてしまいます。しかし、自分の能力を超えた安請け合いのために、ご迷惑をお掛けしたこともあったかもしれません。今回も、余程のことであったのであろうと思い、受諾をしないという選択肢はありませんでした。

私の役割は、本間議長のサポートを行い、代議員の皆様が限られた時間で十分な議論を行うことが出来るようお手伝いをし、なおかつ円滑に議事を進行することであろうと認識しています。

甚だ微力ではありますが、皆様のご指導、ご鞭撻を頂戴しながら最善を尽くす所存でございますので、多少の弊害は優しい眼差しで見守って頂きますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



「家族でおでかけ『北海道レールエールキャンペーン2019』開催!!

北海道鉄道活性化協議会（会長：北海道知事）では、2019年7月15日～10月14日の期間、北海道の鉄道に乗って、遊んで、楽しんで応援する「北海道レールエールキャンペーン2019」を実施いたします。

キャンペーン内ではご家族で鉄道を楽しめるよう、様々な事業を展開しておりますので、皆様ぜひご参加ください！

公式 Web サイト <https://www.hokkaido-rail-k.jp/railyell-cam>